

外国語科

1 ねらい

学習指導要領の改訂で、習得から活用、そして探究といった学習の流れを重視し、基礎的・基本的な知識・技能の習得とこれらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成をバランスよく図ることとされています。そして、知識・技能を習得するのも、これらを活用し課題を解決するために思考し、判断し、表現するのもすべて言語によって行われるものですから、これらの学習活動の基盤となるのは、言語に関する能力であることは言うまでもありません。さらに、言語無くしては論理的思考やコミュニケーションはあり得ないだけでなく、言語は感性・情緒の基盤となるものですから、言語無くしては豊かな心も持ち得ないと言えます。したがって、言語に関する能力の育成を重視し、言語活動を充実することが求められているのです。

生徒の日常生活において、外国語を使用する機会は非常に限られています。そのため、学校の授業において、積極的に言語活動に取り組みせることが必要となるのです。また、高等教育機関で学んだり社会に出て働いたりする際に必要とされる外国語の能力の基盤となる部分を外国語科で育成することが期待されていることを考えるとその指導は、他の教科・科目等の指導と適切に連携していることも必要となります。外国語科の各科目の指導と評価の計画を作成する際には、他の教科・科目等との関連を十分に考慮して行う必要があります。

2 外国語科(英語)における言語活動

外国語科は外国語に関する技能そのものを習得することが主要な目的となる教科ですから、他の教科とは言語活動のねらいに異なる部分があります。外国語科における言語活動には次の2つの側面があります。生徒が習得した知識・理解を活用するための「場」を整備し、思考力・判断力・表現力等を育成するという目標達成のための言語活動、つまり指導目標達成のための「手立て」としての側面と、生徒に実際に外国語を使用した活動を行わせること自体が指導目標となる「目的」としての側面があります。つまり、外国語科においては言語活動の充実には「指導手段」でもあり「指導目標」でもあるのです。

外国語科において、言語活動を「充実」させるために留意すべきポイントは次の4点です。

留意点① 一定の指導後に生徒に外国語で表現させたい事項（主題、使わせたい言語材料、形態 [Writing or Speaking]、文字数や速さ等）が具体的に定められた指導目標を作成する。

留意点② ①の指導目標達成に必要な知識・技能を明確にする。特に、意味を理解して、正しく音読できることは絶対に必要な知識・技能である。

留意点③ ②の知識・技能を「教え込む」のではなく、教師と生徒又は生徒同士でのやりとりの中で、理解した上でその知識・技能が使えるような様々な活動を授業の中にふんだんに盛り込む。

留意点④ ③で習得した知識・技能を活かせば行える自己表現活動(= ①の指導目標)に生徒が成功できるように練習や校正を行う時間を確保する。

つまり、自己表現活動という目標を定め、そのための知識・技能を様々な活動を通して習得させ(指導手段としての言語活動)、そして習得した知識・技能を用いて自己表現活動(指導目標としての言語活動)を成功させることができれば、外国語科における言語活動は「充実している」ということになります。

3 Q & A

Q 1 新学習指導要領に示されている外国語(英語)科の目標の中の「適切に伝えたりするコミュニケーション能力」とはどのようなものですか。

A 1 義務教育で培われてきた素地(小学校)や基礎(中学校)を踏まえて、「英語を使って人と関わること」や「相手を尊重し、意見や気持ちを的確に受け止め、適切に伝えあう力」です。さらに、外国語科におけるコミュニケーションの能力とは、英語自体に関する知識・理解とそれを使うことができる力や意欲からなる力だと理解しましょう。

Q 2 「授業は英語で行うことを基本とする」とありますが、どのようなことに留意して授業を行えばいいですか。

A 2 「授業を英語で行う」というのは、生徒の英語での言語活動がスムーズに行われるような活動の「場」を整えることが大きな目的の1つです。教師が一方的に英語でまくし立てるような指導を想定したものではありません。むしろ、教師3：生徒7程度の英語使用を目指した指導をまずは心がけましょう。そして、生徒に英語を使わせるために、教師が英語を使います。教師の英語は具体的には、①授業を展開する英語(生徒が理解できるレベルの英語で、生徒に興味を持たせるスモールトークに始まり、指示をしたり、活動を促したりする英語です。既習事項等を活用しながら身近な話題を話し、実際に習った表現で「こんなことが言える」という具体例を提示することは非常に大切なことです。)②言語モデルとしての英語(上質の音声モデルを提供するための英語です。相手に応じて話のスピードをコントロールしたり、適切な表現を選択したりするなどの具体例を示すものです。)③理解を手助けする英語(生徒が、ペア・ワーク等の言語活動で適当な表現が見つけれないときなどに英語でヒントを与えたり、英文を読ませたりした後に、wh-疑問文で質問すること等も含まれます。)④動機付けのための英語(授業を連続した小さな成功体験の場にするための英語です。様々な賞賛する表現を意識的に使うことが求められます。)があります。

Q 3 文法や構文の説明といったものを英語で行うことは可能ですか(常に英語で行わなければならないのですか)。

A 3 英語による指導は、あくまでも生徒のコミュニケーション活動を支えることが目的ですから、基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指した指導を行う際は、生徒の理解の程度に合わせて日本語で説明等を行うことに問題はありませぬ。ただし、日本語で生徒に input する知識・技能でも、生徒がそれを具体的なコミュニケーション活動を通して output するための活動の場は常に準備しておく必要があります。そこでは教師も生徒も共に英語で活動を進められるように指導計画を予め立てておくことが成功の秘訣です。

Q 4 英語の授業における言語活動にはどのようなものがありますか。

A 4 英語の授業において言語活動の種類は非常に様々です。しかし、それらを 1 Listening 2 Reading 3 Speaking 4 Writing の4つの技能毎に分類し、さらにそれぞれを基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指すものと、その知識・技能を活用するための思考力・判断力・表現力等を育成することを目指すものに分類することでわかりやすくなります。単元の指導目標や各時の指導目標に合わせて、意図的に生徒主体の英語による活動を授業に盛り込むことで、言語活動の充実が図られます。教科書に出てくる順番に、その内容に関する授業を進めるといった指導計画から CAN-DO リストによる指導へと、指導する事項やその取り扱い方とその指導時期を検討し、最終的に教科の目指すべき生徒の育成に結びつけるといった指導計画への転換が言語活動を充実させる授業づくりの第一歩と言えます。さらに、4技能の根底にある基礎的な力とは語彙力と音読の力であることは間違いありません。第1学年が終わるまでには音読の力を充分につけておけば、その後の授業における言語活動に生徒が戸惑うことも少なくなります。

4 学習指導の事例

英語ー1 リーディングをライティング活動へつなげる事例

1 単元名：克服すべき又は克服した自らの課題を説明できる（1学年・英語I）

Lesson 4 A Lucky Man by Michael J. Fox（Powwow English Course I 文英堂）

2 本時の目標：主人公の境遇に関する情報を整理・理解し、与えられたテーマに関する英文を書く準備ができる。

3 授業仮説：英文を多様な方法で音読することにより、英文読解における内容理解が進むとともに、生徒自身の考えを英語で表現するための英語の活用力が向上するであろう。
マインドマッピングシートを用いれば、自らが表現しようとする内容を深め、まとまりのある英文が書けるであろう。

4 主な学習活動（全13時間）

	学習活動		指導上の留意点・手だて
第1次 （9時間）	1	イントロダクション	○マイケル・J・フォックスがパーキンソン病であることを伏せて演じている映像を見せ、本単元の目標を理解させる。
	2	重要語句等の運用練習 関係代名詞の運用練習	○重要語句等や関係代名詞を理解させた上で、様々な例文を参考にして表現活動を行わせる。
	3	part 1～part 4 通読 英問英答	○語句チェック表を参考にして、指定された時間内に全文を黙読させる。 ○基本的な内容の理解を問う英問英答を行う。
	4	part 1・2 の理解	○パート毎の内容を理解するためにリスニングを繰り返す。
	5	音読練習 英問英答	○多様な音読活動を行う。 ○パート毎の要点の把握を問う英問英答を行う。
	6	part 3・4 の理解	○パート毎の内容を理解するためにリスニングを繰り返す。
	7	音読練習 英問英答	○多様な音読活動を行う。 ○パート毎の要点の把握を問う英問英答を行う。
	8	段落毎の一文要約	○各段落を一文の英語に要約させる。
	9	Open End 英問英答	○PISA型読解力を意識した、Open Endの英問英答を行う。

	学習活動		指導上の留意点・手だて
第2次 （4時間）	1	1 作文下書き	○マッピングした情報を整理する際は、日本語を併用してもよい。 ○本文中に出ている表現を活用することを念頭に置いてまとめさせる。 ○主張点を明確にできているか、主張の理由や根拠を述べているか、明らかな文法・語法上の誤りはないか等観点を明確に示して活動させる。
	2	○マインドマッピングシートを使って、表現したい内容とその段落構成を考える。 2 検討と校正・清書 ○ペアで各時の下書きを読み合い、お互いに改善点を指摘しあう。	

	3	音読練習 ○完成原稿をグループ内で音読し、音声面の改善点を指摘しあう。	○グループ活動の成果を各自でメモさせ、音読練習の意義を理解させる。 ○ALTが机間指導を行う。理解可能かどうかを評価の観点とする。
	3 4	4 全体発表	○グループから代表を1名ずつ選出し、全体の前で発表する。 ○発表原稿は全員に印刷し、事前に配付する。 ○全員の作文はALTが添削・寸評して後日返却する。

Lesson 4 A LUCKY MAN *Part 3*

Comprehension Check Worksheet

【Questions A】

- ① Michael J. Fox carried P.D. meds around (for treatment / to hide his disease).
- ② (No one / only his family and some close friends) knew about his disease.
- ③ He hid his disease (for seven years / for seven weeks).
- ④ In 1998 he got busier (because he got a new job / because his disease got worse).
- ⑤ His disease got worse (probably because he got busier / probably because he didn't take pills).
- ⑥ He decided to tell everyone about his disease because he was giving some trouble (to other people / to his family).

【Questions B】

1. Why did he carry P.D. meds around?
Ans.) He carried them around to (hide his disease).
2. Who knew about his disease?
Ans.) Only (his family and some close friends) knew about it.
3. How long did he hide his disease?
Ans.) He hid it (for seven years).
4. Why did he get busier in 1998?
Ans.) Because he got (a new job).
5. Why did his disease get worse?
Ans.) Probably because he got (busier).
6. Why did he decide to tell everyone about his disease?
Ans.) Because he was giving some (trouble to other people).

内容理解のために使用したプリント(英問英答用)

TELL US YOUR IDEA! IN 10 MINUTES L4 part3

[Facts about Michael J. Fox and Parkinson's disease]

- ① *Back to the Future* was a big hit.
- ② He was a famous actor.
- ③ He acted in many movies and TV dramas.
- ④ He was a good looking man.
- ⑤ He lived in uncommonly well. (He was very rich.)
- ⑥ He had a beautiful wife and a son.
- ⑦ Parkinson's is a difficult disease.
- ⑧ Your arms and legs tremble if you have Parkinson's.

Question)

Think about the reason why Michael J. Fox had to hide his disease for seven years?

「マイケル・J・フォックスが7年間病気を隠さなければならなかった理由について考えなさい」

Write your idea in English in 5 minutes!

★becauseの後に続けて書きにくいなら、最初から自分で書いてもよい

<p>Michael J. Fox kept it secret for seven years because _____ (S) _____ (V)</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>() words</p>

内容理解のために使用したプリント (発表原稿用紙)

授業者の感想

事後授業では、これまでやっていた5分間ライティングの発表とは異なり、3段落構成のライティングとスピーチという、ある程度情報量のある英文の作成と発表に取り組みました。

テーマは *Overcoming Challenges* で、過去あるいは現在生徒が向き合っている困難についてスピーチするという活動でしたが、マインドマッピングや段落構成補助(トピックセンテンスの作成補助)シートなどを利用し、1年生全員がALTの前でスピーチを行いました。

観衆の目を見て、抑揚をつけて話すなど、スピーチの技術習得はこれからですが、前向きに取り組む姿が見られ、こちらが予想する以上の情報を英語を使って伝えることができました。生徒には英語で表現する意欲や内容はあるのですが、それを行うのに十分な知識と技術(特に語彙や音読する力等)を持っていないことがいつも課題となっています。しかし、今回のように、適切な手だてのもと、自分で苦労して作ったスピーチを人前で披露し、他の生徒から拍手で受け入れられるという経験は、生徒たちの自信と英語学習に対するモチベーションアップにつながったと思います。

生徒の状況

スピーチを生徒だけでなく ALT にも聞いてもらい、さらにはスピーチが終わった後、スピーチの内容について ALT から質問を受けるという形式にしました。さらに、事前に評価項目も明確にしていたので、生徒は積極的に発表し、いつもとは違う姿を目にすることができました。あまり英語が得意でない生徒が、日ごろの音読している少し難しい表現をスピーチの中で使う生徒もいました。また、英語だからこそ言えるようなプライベートな内容を発表する生徒もいて、日本語のスピーチにはない軽さが、逆に聴衆の感動を呼ぶこともありました。聞く側の生徒もスピーチの内容を真剣に聞き取ろうとしていて、発表させる活動の有効性を感じ取ることができました。

英語ー 2 リーディングをスピーキング活動へつなげる事例

1 単元名：自分の前向きな気持ちを口頭で他者へ伝える（1 学年・英語 I）

Lesson 6 The Trip That Changed My Life (Polestar English Course I 数研出版)

2 本時の目標：本文を参考にしながら、自分の考えを持ち、それを英語で表現し、口頭で発表できる。

3 授業仮説：「自分の夢や興味のあることを表現する」という活動において、本文の星野道夫 氏の人生を方向づけるきっかけとなったエピソードを参考に、自分自身を振り返るという活動を取り入れれば、具体的で論理的な表現の力が育つであろう。

4 具体的な指導案：

(1) 単元指導計画

第 1 時 Lesson6 の導入、Part1 内容理解(pp.67 ~ 68)

第 2 時 Part1 音読活動 Part2 導入(pp.68 ~ 69)

第 3 時 Part2 内容理解、音読活動(p.69)

第 4 時 Part3 導入、内容理解(p.70)

第 5 時 Part3 復習、音読活動(p.70)

第 6 時 Part1 ~ 3 復習活動(pp.67 ~ 70) 【本時】

第 7 時 Part4 内容理解(pp.72 ~ 73)

第 8 時 Part4 音読、Part5 導入(pp.72 ~ 74)

第 9 時 Part5 内容理解、音読 (p.74)

第 10 時 Lesson6 の復習、意見交換・発表

(2) 本時の手立て

- ・生徒自身の考えが引き出されるように、星野氏のエピソードを一つひとつ取り上げ、「自分なら」という視点で考える活動を取り入れる。
- ・生徒が英語で表現しやすいように、本文中に出てきた表現やスピーチの形式をどのように自

分の作文に取り入れていくか、具体例を提示する。

- ・自分の考えを再確認できるように、他の生徒との意見交流を行う。
- ・まとまった論理的な文章となるように、英文全体の組立て方を具体的に指導する。

(3) 学習の展開

	学習内容・活動	指導上の留意点	教材	配当時間	学習形態	評価規準
導入	<p>1. Warm Up をする。</p> <p>○ Part3 の音読活動をする。</p> <p>2. 本時の目標を確認する。</p> <p>Today' s goal:</p> <p>To be able to write where YOU want to go and who YOU want to see and why.</p>		学習プリント	7分	ペア	前向きな姿勢で取り組んでいる。(関心・意欲・態度)
展開	<p>1. 本文の内容(Part1 ～ 3)を復習する。</p> <p>○全員が質問を考えるよう、Line of Row ゲームを行う。</p> <p>・Where did Mr. Hoshino want to go?</p> <p>・Why did he want to go there?</p> <p>・What did he do to make it happen?</p> <p>・When did he actually go there?</p>	<p>○スムーズに答えられるよう、質問に対する答え方のサンプルをプリントに記載しておく。</p>	学習プリント	10分	一斉	
	<p>2. 1の項目について、自分のことに置き換える。</p> <p>○自分ならどこに行きたいか、誰に会いたいか、それはなぜか、いつ、どうやって実現させたいか、等を考えさせる。</p>	<p>○教師の具体例を示す。</p> <p>○単語レベルの英語でいいのでメモをするように指示を与える。</p>	学習プリント	7分	個人	
	<p>3. お互いの行きたい場所について伝え合う。</p> <p>○最低二人に聞いてみるように指示する。</p>	<p>○質問→答えという書式を与えておく。</p>	学習プリント	10分	ペア	適切な態度で意見を述べたり聴いたりできる。(関心・意欲・態度)
	<p>4. 自分の書いた内容を、スピーチ形式に書き換える。</p>	<p>○教師の具体例を示す。</p>		10分		書式を使いながら、相手にわかり

<p>Hello, everyone.</p> <p>Do you know the place I'd like to visit most? I'd like to visit ...</p> <p>There are.. reasons for this.</p> <p>First,...Second...</p> <p>To make it happen by the age of ..., I will</p>	<p>○レッスン全体のまとめでの発表に使用することを伝える。</p>			<p>やすく意見を述べることができる。 (表現)</p>
<p>ま 1. 本時のまとめをする。</p> <p>と ○何人かを指名し、発表させる。</p> <p>め ○本時の自己評価をする。</p> <p>2. 次時の予告を聞く。</p>		6分		<p>本時の内容を理解し、振り返ることができる。(理解)</p>

Lesson6 The Trip That Changed My Life

●Today's goal:

To be able to write about your dream:
[①where YOU want to go / ②who YOU want to see / ③what YOU want to be]

STEP1: about Mr Hoshino Dream No.①

1) Where did he want to go?

2) Why did he want to go there?

3) What did he do to make it happen?

4) When did he actually go there?

STEP3: Ask your friends' dream

Name: (Dream No.)

Childhood dream:

Now:

Why:

How:

When:

1 - () No. () ()

STEP2: about YOU Dream No.()

1-1) What was your childhood dream? Why?

1-2) And now? What is your dream?

2) Reason
[inspiration(きっかけ), feelings(気持ち), effect(影響)]

3) How?

4) When?

STEP4: Write about your dream

Example 1 Dream No.①&③

① Hello, everyone. ←挨拶

② Can you guess where I want to go? I want to go to outer space. ←内容の紹介

③ When I was little, I *happened to see a *shooting star in the sky. I asked my parents many questions about stars and outer space. Since then, I have been interested in space. When I think of the mysteries of the universe, I feel excited. *That is why I want to go to space.←自分の夢の背景や理由 (きっかけ、気持ちなど)

④ To make it happen, I have to study hard now, because I want to study at Kyushu University and be an *astronaut like Mr.Wakata.←実現の方法

⑤ I want to *realize this dream by the age of 30.←実現の時期

⑥ Thank you.←終わりの挨拶

*happen to V たまたまVする shooting star 流れ星 the universe 宇宙(銀河系)
that is why~そういうわけで~ astronaut 宇宙飛行士 realize 実現させる

Example 2 Dream No.③

① Hello, everyone.

② Can you guess what I want to be? I want to be a teacher who can also be an interpreter.

③ When I went to the "science camp", an *interpreter came along with us. Her English was *so perfect that I thought this could be my goal to be an English expert. Since then, I started to think about studying to *interpret English. And I believe that if I enjoy studying English, my students will enjoy English too.

④ I am planning to start learning this skill in the near future. I want to *achieve this goal within 10 years.

⑤ Thank you. *interpreter 通訳者 so~that SV とても~なのでSV interpret 通訳 achieve 達成する



使用した学習プリント

授業者の感想

全ての単元において、予め最終的な到達目標を立てておくことの重要性を改めて感じました。今回は、本文の内容に関して自分を振り返り、最終的にスピーチをするという到達目標でした。目標を立てたことにより、それより前にどのような準備が必要かを考えた上で授業を組立てることができ、その全ての授業内の、全ての活動にきちんと目的意識を持って取り組ませることができました。目標と目的を明確にすることで、「単なる作業」にはならず、緊張感のある、意味のある授業になるのだと感じました。

生徒の状況

本時は作文まででしたが、全員が全員のスピーチに対してコメントをするという最終ゴールがあったため、緊張感を持って取り組むことができました。一方で、まだまだ声が出なかつたり、作文に戸惑ったりする場面も多く見られました。自信を持って発言できるようにするための手立てを常に考えながら授業を行うということが今後の課題です。

英語ー 3 スピーチによって基礎的・基本的な知識・技能を定着させる事例

1 単元名：Show and Tell (Speech about "My important thing") (1 学年・英語 I)		
2 本時の目標：聞き手に伝えようという意欲を持ってスピーチ(Show & Tell)を行うことができる。 また、Evaluation sheet への記入を通して、他の人のスピーチを理解しようとする姿勢で聞くことができる。		
3 授業仮説：原稿作成、ペアワークやグループワークを段階的に取り入れた後に発表をすることによって、聞き手の立場に立ったスピーチができるようになるであろう。また、ALT からの質問や Evaluation sheet への記入によって、他の人のスピーチに関心を持って聞くことができるようになるであろう。		
4 主な学習活動 (全 4 時間) ※ Lesson 9 "Light Up the World"のまとめ		
	学習活動	指導上の留意点・手だて
第 1 時	1 目標と題材の理解 "My important thing"	○選んだ物に関する背景や大切にしている理由を説明するスピーチを行うことを理解させる。
	2 ALT の Demonstration ※全体像把握のため	○スクリプトを配付せずに Demonstration を聞かせ、説明の後配付して、もう一度聞かせる。
	3 原稿の素案作成 ※アイディアの収集	○大切にしている理由が明確になるよう意識させながら、自分が大切にしている物に関することを Idea sheet に記入させる。
	4 文法事項の確認	○ grammar points sheet を用いて、使用する言語材料を指示する。

	5 Chorus Reading (音読)	○ grammar points sheet の例文を音読し、言語材料のパターンを確認させる。
--	-----------------------	---

	学習活動	指導上の留意点・手だて
第 2 時	1 本時の方向性をつかむ	○原稿の完成を目標とさせる。
	2 ALT の Demonstration ※留意事項把握のため	○スクリプトを見ながら ALT の Demonstration を聞く。視線や声の大きさ、発音やイントネーションなど、スピーチの際の留意事項について確認させる。
	3 段落構造の説明 3rd: telling why it is important 4th: telling any comments on it	○ work sheet の例文を用いて段落構造を理解させる。第3段落が最も大切であることを理解させる。
	4 Chorus Reading (音読) 5 Evaluation sheet の説明	○ work sheet の例文を音読する。 ○ Evaluation sheet を配付し、①理由がはっきりしているか②声の大きさは十分であるか等、記入のポイントを説明する。
	6 原稿(paragraph sheet)の作成	○ JTE と ALT は個別に生徒の質問に答える。 ○ 難しい単語は This is ~ in Japanese. の表現を利用させる。

	学習活動	指導上の留意点・手だて
第 3 時	1 本時の方向性をつかむ	○グループ内での発表と原稿の手直しであることを確認させる。
	2 ALT の Demonstration ※段落構成把握のため	○スクリプトを見ながら ALT の Demonstration を聞く。段落構成をイメージさせる。
※	3 Speech Practice (個人練習) 1) 起立して原稿を読む。 2) 読み終えたら席に着く。	○大きな声で話すことに慣れさせる。 ○ JTE は時間を計り、各自で自分のスピーチの時間を確認させる。
	4 Group Work 1) Group Speech 2) Evaluation sheet の記入。	○ JTE が 3～4 人のグループ割を行う。 ○ Evaluation sheet に記入しながら、スピーチを聞かせ、Group Work 終了後に Evaluation sheet を話し手に渡し、手直しの手がかりにさせる。
	5 原稿の手直し	○ Evaluation sheet を元に手直しをさせる。 ○原稿を提出させ原稿チェックをする。 ○各自でタイトルカードを作成させる。

	学習活動	指導上の留意点・手だて
第 4 時	1 本時の方向性をつかむ 2 ALT の Demonstration ※最終確認のため	○全員の発表であることを確認させる。 ○生徒は原稿を見ずに ALT の Demonstration を聞かせる。

本時	3 Speech Practice (個人練習)	○発表を意識して読ませる。
	4 Pair Work	○JTEが指定してペアを作り、各ペアで交互にスピーチを行う。
	1) ペアで交互に行う。	○アドバイスを与えられるように聞かせる。
	2) ペアにアドバイスをを行う。	○JTEはスピーチのトピックを示し時間を計る。
	5 Speech (Show & Tell)	
	1) 順番に前でスピーチ	
	2) evaluation sheet へ記入。	
	6 話し手への質問	○スピーチの後、ALTが話し手に質問を行う。
7 聞き手への質問	○ALTは聞き手にも質問を行う。	
8 remark sheet の記入	○誰のスピーチが一番心に残ったか、remark sheet を完成し、提出させる。	

※4時間の配当が難しい場合でも、第3時の group work を第2時へ組み込むなどの工夫をすれば生徒の学習意欲を損なうことなく実施できます。

5 主な言語材料

- ① give / send / tell + O + O (二重目的語を取る動詞) ※ Lesson 6 で既習
(p.75 The light of the Tower gives me strength and peace of mind.)
- ② make + O + C (第5文型を作る make)
(p.76 She made the visitors and the plants happy at the same time.)
(p.77 She wants to make people happy by lighting up the inside of their hearts.)
- ③ I think that S + V (+ because S + V). ※ Lesson 4 で既習
(p.32 I think that John got angry about my question.)

Rules: 次にあげている文法を必ず使って作ること!

① give / send / tell の中からひとつ

② make O+C

この2つの表現を使って原稿を書きます。
下の使い方を参考にして作りましょう。

<How to use /使い方>

① give O+O / send O+O / tell O+O (Lesson 6 Banana Power /Use It より)

ここに来る代名詞は目的格でなくてはならない。



【スピーチの様子】

② make O+C (Lesson 9 Light Up the World Use It)

The news made me happy. そのニュースは私を幸せにした。

This made us angry. これは私たちが怒らせた。

He makes me nervous. 彼は私を緊張させる。

【資料1 grammar points sheet】

2nd paragraph : (for telling where and how they got it) 2段落目

I got it when I was (age/ 年齢) () 歳のときに手に入れました。

I got it (number / 数) years/ month ago. () 年/ヶ月前に手に入れました。

I don't remember when I got it. 手に入れたのはいつだったか覚えていません。

【資料2 work sheet】



【個人練習の様子】

授業者の感想

生徒は英語で表現したい気持ちは持っているのですが、それを支える知識が伴わないことがいつも問題となります。簡単なスピーチをさせるだけでも、教師のサポートがかなり必要です。しかし、この活動を通して、自分の大切なものについて考え、それをクラスで共有するという経験は、教科書を使って学ぶ英語活動よりも生徒たちの心の中に残る活動になったのではないかと思います。今回のように自分で苦労して作ったスピーチを人前で披露し、他の生徒から拍手で受け入れられるという経験は、生徒たちの自信につながる有効な手だてになったと思います。今回の授業では、生徒が苦手としている表現活動であっても、前向きに取り組む姿が見られ、今までとは違う可能性を見いだすことができました。

ここがポイント

〈ポイント1〉自分の生き方や価値観について表現する題材を設定する。

スピーチなどの自己表現活動を取り入れる場合、生徒が語彙や文法事項等の基礎的・基本的な知識・技能をあまり習得できていない時、特に1学年の段階では、中学校の学習活動で取り組んだことのある表現活動を取り入れ、その題材の設定に工夫を加えることによって、英語を苦手とする生徒でも取り組み易くなります。

Show & Tellは、多くの中学校でも行われている一般的な表現活動ですが、題材を My important thing とすることによって、「自分にとって大切なことは何か」という自己の価値観が表出される活動になり、高校生の表現活動に適した内容になります。コミュニケーションのベースとなるものは物事の理由を考えることですから、自分の価値観や生活を振り返りながら物事を考え、それが的確に表現できるような題材を取り入れた活動を計画的・継続的に実施していくことが大切です。原稿の作成から発表までの過程を通し、自分の考えを他者へ伝える力を育成することが一つのポイントと考えます。

〈ポイント2〉学習した言語材料の活用を通して知識・技能の定着を図る。

外国語は、言語の習得そのものを目的とする教科でもあるため、基礎的・基本的な知識・技能の習得のためにある程度の時間を配当することは避けられません。しかし、外国語は本来コミュニケーションを行うための手段なのですから、それぞれの生徒が持つ知識や情報を表現する「場」を設定し、実際に外国語を使用した自己表現活動を計画的・継続的に行うことによって知識の定着を図る方が効果的です。インプットした知識・技能をアウトプットする活動を増やしていくことが一つのポイントになると考えます。

〈ポイント3〉個人練習やペア活動、グループ活動を取り入れ、段階を踏んで発表へと広げる。

伝えたい内容を的確に聞く人に伝えるためには、発音やイントネーションに気をつけて話すことが大切なので、そのための適切な指導が必要になります。今回は、ALTによるモデルスピーチを毎時間提示し、身につけて欲しい表現に気づかせるようにしました。

「相手に伝わる」よろこびは、次に「話す」意欲へつながります。相手に伝わるように話すためには、原稿の校正や練習のための時間を確保しなければなりません。限られた授業時間数の中で多くの時間を配当するのは難しいことですが、原稿作成のための時間をで

きるだけ準備し、Speech Practice や Pair Work, Group Work などの段階を踏んだ準備を計画的に取り入れることによって、声の大きさやスピードなどに気をつけたスムーズなスピーチになっていきます。一つずつの段階を踏んだ活動を計画し、「英語を使ってみよう・使ってみよう」と感じられるように組立てることが大切です。

ここでは、第1時に原稿の素案作成、第2時に原稿の作成、第3時に Group work、最終の第4時では Speech Practice や Pair Work を入れた後のスピーチの実施という段階を紹介しています。暗唱によるスピーチができればよいのですが、最初から暗唱によるスピーチに固定してしまうと、英語が苦手な生徒にとってはハードルが高い活動になってしまいます。意欲が持続するような、生徒の実態に合わせた組立てが必要になります。

〈ポイント4〉「聞く」活動を通して、他者の価値観の理解を図る。

自己表現活動としてのスピーチは、聞く人を意識した「話す」活動であると同時に、話し手が伝えたいことを理解しようとして「聞く」活動でもあるため、「話す」能力を育成するだけでなく、「聞く」能力も育成する総合的な活動でもあります。

「聞く」側の意識を高めるためには、生徒の知識・技能の習得状況が高ければ、生徒間での相互活動を取り入れて、スピーチの後の質問を生徒自身が英語で行えますが、知識・技能の習得が不十分な生徒にとっては難しい活動と言わざるを得ません。このような場合には、ALT が話し手に対して質問するだけでなく、聞き手の生徒たちに対して質問することで、「聞く」意識を高めることにつながります。最終的に生徒相互で質問ができるようになるために、段階を踏んだ指導計画を立てていくことが大切です。また、Evaluation Sheet への記入等を行うことによって、聞くポイントが明確になり、理解できないまま聞き流してしまうことが少なくなります。「相手に伝わる」よろこびを体感すると同時に、「わかった」というよろこびも学習意欲を高めることにつながります。

生徒の状況

生徒が積極的に発表しており、いつもとは違う姿を目にすることができました。また、聞く側の生徒もスピーチの内容を真剣に聞き取ろうとしていて、発表させる活動の有効性を感じ取ることができました。